

1 調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

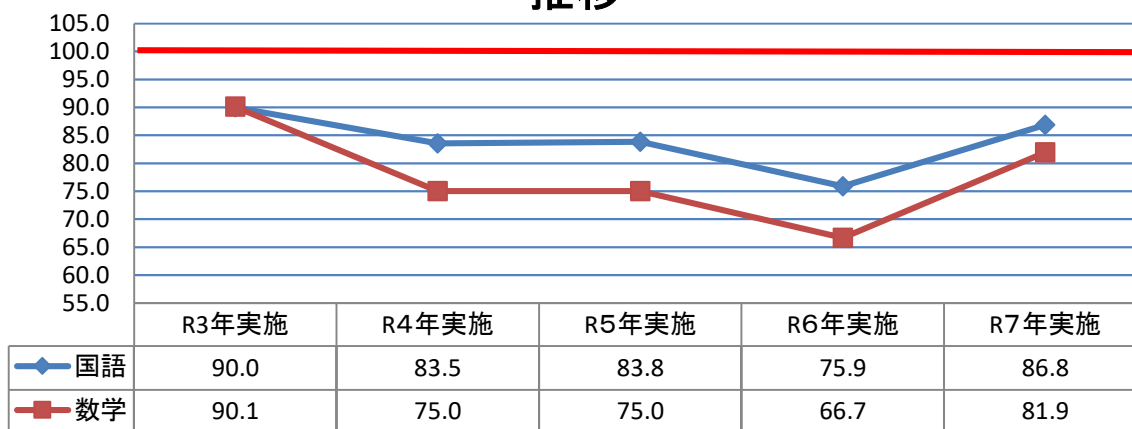
2 学校における学力向上に向けての取組

- 基礎・基本の定着
 - ・一単位時間における学習内容の定着を図るミニテストの実施
 - ・系統的なイナスタの実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)
- 家庭学習の質と量の向上
 - ・授業と自学ノートの連動(1日の学習内容をまとめる)
 - ・個に応じた週末課題の提示と振り返り
- 授業改善
 - ・定期考査に活用問題を全教科に取り入れ、それに対応した授業づくりを協議する教科部会の実施
- 各教科の領域別の得点率やC・D層の割合などの細かなデータ分析を利用した課題の把握や系統性のある改善策の作成・実施
- 語彙を増やすための活動や辞書の活用場面を増やすことによる語彙力の向上を目指した取組の実施

3 調査結果(全国の平均正答数を100としたときの標準化得点)

	国 語	数 学
本校	88.0	84.3
嘉麻市	81.6	68.1
全国	100	100

推移



4 各学校における分析

【国語科】

○ほとんどの項目において、県・全国の平均正答率を下回っているが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」においては、県・全国の平均正答率を僅かながら上回っており、国語科の授業での辞書の活用や各教科の自分の考えを書く活動の中から、言葉に関する基本的な知識・技能が身につけていると考えられる。

○四分位層においては、A層において、県平均との差が、昨年度-25.4に対して、今年度-0.8と大幅に差が埋まってきている。C層においては、県平均との差が昨年度12.7に対して-8.0と大幅に割合が減っている。これは、毎日の自学ノートにおいて、自身の言葉でまとめる活動などスモールステップで行ってきたことがC層の引き上げとA層の増加の要因のひとつと考えられる。

●問題形式別に見ると、記述式の問題において正答率が低く、無回答が多くなっている。これは、問題の内容は読み取ってはいるが、そこから説明を加えながら自身の考えを書くことへの課題があると考えられる。そのため、全教科において「根拠を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを書く」活動のより一層の充実を図る必要がある。

【数学科】

○問題形式別に見ると、選択式の問題においては、県・全国の平均正答率を上回っており、基礎基本の定着を目的とした取組が効果があったと考えられる。特に各授業毎のミニテストや、イナスタが効果的だったと考えられる。

○四分位層においては、A層において、県平均との差が昨年度-29.0に対して、今年度-8.2と大幅に差が埋まってきている。C層においては、県平均との差が昨年度15.7に対して-1.5と大幅に割合が減ってきている。これは、単元テストの結果をもとに、再テストや補充を実施したり、そのあとの授業改善につなげたりしたことが、C層の引き上げとA層の増加の要因のひとつと考えられる。

●問題形式別に見ると、記述式の問題において、無回答が多い傾向にあり、約4割が無回答となっている。数学的に思考、判断し、表現する学習が必要である。また今後、更なる個に応じた週末課題のあり方の工夫が必要である。

【理科】

○ほとんどの問題において、県・全国の平均正答率を下回っているが、難易度5で選択式の3つの問題においては県・全国の平均正答率を上回っており、日頃の授業での知識が身につけていると考えられる。

●「生命」の領域の問題が他の領域の問題よりも正答率が低く、特に身近な身体の仕組みについての課題に見られる。

5 各学校における今後の取組

○データの分析と職員への周知

・校内学力向上研修を通してCD層の割合や細かなデータなど分析を共通理解し、課題の把握と今後の取組の周知(学力向上プランや二学期以降の取組)
・CD層を把握した上で取組を行い、取組後、見取りを行う。

○基礎基本の定着のための取組

・数学科と英語科の授業において分割授業の実施
・単元の中で、学習内容を定着を見取る単元テストの計画的な実施
・計画的なイナスタの実施(基礎・基本の定着を図るスモールステップ問題)不合格者への再テストの実施
・語彙を増やすための活動や辞書の活用場面を増やすことによる語彙力の向上を目指した取組の実施
・AIDリルとICTの活用

○家庭学習の質と量の向上のための取組

・授業と自学ノートの連動(自分の弱点を克服するための、1時間の学習内容をまとめる学習)
・試験前の学習内容の質の向上と頑張りを称賛する場の設定として自学ノートコンテストの実施

○授業改善のための取組

・単元テストの実施とその後の補充
・「主体的・対話的な学び」の充実を図るための学習者が学びを選択できる授業づくり(1人1回公開授業)
・全教科における根拠を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを書く活動を設定。また、定期考査で自分の考えを書く問題の出題と、結果の分析をもとにした授業改善

6 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

○子どもが進んで問題解決を図る授業づくりを推進することで、主体的に取り組む態度とともに、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

○小・中・義務教育学校とも、単元テストをもとに短いスパンで評価することを通して、一人一人の学習の定着状況を見とるとともに、個に応じた授業づくりを推進し、C・D層の子どもの学力向上を図る。

○家庭学習の充実や帯学習の取組など、組織的な学力向上の取組を構築することを通して、基礎基本の定着を図る。